

論 説

岡山市の児童館の現状と課題
—— 全国の児童館調査との比較を通して ——

八重樫 牧 子

ノートルダム清心女子大学 非常勤講師

(平成 8 年11月20日受理)

Current State and Problems of Children's Halls in Okayama City
—— Comparison with a Survey Study of All Children's Halls in Japan ——

Makiko YAEGASHI

Notre Dame Seishin University

Okayama, 700, Japan

(Accepted Nov. 20, 1996)

Key words : children's halls, children's centers, children's recreational facilities,
sound and healthy upbringing, child clubs, child care support

Abstract

In an effort to probe for ways to implement the “Engel Plan in Municipalities” for children's halls, I examined the current state and problems of children's halls in Okayama City. I especially considered their physical condition and activities, provided and compared the findings with the results of a survey of all children's halls in Japan. I concluded that two factors are very important. Future children's halls should be strategically located to accommodate all children who need the service, and their functions should be reviewed on a regular basis.

要 約

本研究では、市町村における地方版エンゼルプランの策定に向けて、今後の児童館のあり方についての見通しをえるために、一地方都市である岡山市の児童館の現状と課題を明らかにすることにした。特に、今回は全国の児童館の実態と比較しながら、①児童館の概要と、②児童館の事業内容について考察した。

これからの岡山市の児童館の課題として、「児童館の適正配置」と「児童館機能の見直し」について指摘しておいた。

はじめに

児童館は、児童福祉法第40条において、児童福祉施設のひとつである屋内の児童厚生施設として規定され、その目的は「児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、又は情操をゆたかにすること」であるとされている。昭和22年12月、児童福祉法は「それまでの児童政策を一貫して支配してきた要保護児童の保護のみを問題とする思想に終止符をうち、それを超えて次代の社会の担い手たる児童一般の健全な育成、福祉の積極的増進を基本精神とする児童についての根本的総合的法律」¹⁾として制定された。すべての児童を対象とする健全育成のための利用施設である児童館は、児童福祉法が制定された当初から今日にいたるまで、児童福祉法の趣旨・目的を最も直接的に現している施設であるといえよう。

しかし、戦後50年を経た今日、子どもや家庭を取り巻く環境は大きく変化し、地域や家庭の養育機能が低下するなかで、「子どもの権利保障」や「地域における子ども家庭支援システムの構築」が児童家庭福祉の新たな政策課題として認識されるようになってきており^{2),3)}、児童福祉制度の見直しも必要になってきている。児童館についても、「子供の未来21プラン研究会」⁴⁾や中央児童福祉審議会・家庭児童健全育成対策部会⁵⁾が指摘しているように、児童館の機能、設置運営、児童厚生員の身分や資格等、児童福祉法の改正を含めた検討が必要になってきている。なお平成8年3月には中央児童福祉審議会に基本問題部会が設置され、児童福祉法を中心とした児童家庭福祉体系の見直しも始まっている⁶⁾。

一方、平成7年度からは「子どもにやさしい街づくり事業」の特別事業として「児童育成基盤整備等推進事業」が新設され、地方版エンゼルプラン策定のための費用が助成されることになった。平成7年度については、17都道府県66市町村が計画策定に取組み、随時計画を発表している⁷⁾。今日、特別保育対策や児童館を中心とする健全育成対策、放課後児童対策などは未だ不十分な状況にあり、施設整備や内容の充実等が必要であるが、著しい地域間の格差を生じさ

せないためにも、とりわけ市町村における「児童育成計画」(地方版エンゼルプラン)の策定が重要になってきている⁴⁾。

そこで本研究では、市町村における地方版エンゼルプランの策定に向けて、今後の児童館のあり方についての見通しをえるために、一地方都市である岡山市の児童館の現状と課題を明らかにすることにした。特に、今回は全国の児童館調査と比較しながら、①児童館の概要と、②児童館の事業内容について考察した。本論に入る前に、まず岡山市の児童館の概況について簡単に説明をしておきたい。

岡山市の児童館の概況

1 岡山市の児童館の推移

岡山市は、岡山県南部の中心地に位置し、平成8年(1996年)4月1日に中核市に移行した。平成7年(1995年)国勢調査速報⁸⁾によると、岡山市の人口は616,056人で、全国の市町村のうち16番目となっており、岡山県の人口(1,951,159人)の31.6%を占めている。平成2年10月1日現在の岡山市の年少人口(0~14歳)は110,555人、総人口の18.6%で減少傾向にある⁹⁾。

全国と岡山市の戦後の児童館設置数の年次推移をみると図1のようになる。平成6年10月1日現在で、全国には4,081の児童館、岡山市には15の児童館がある。児童館は、児童館の設置・運営費に対する国庫補助制度が創設された昭和38年(1963年)以降、本格的に整備拡大されたことがわかる。岡山市の場合も昭和40年3月にA児童館が開設されている(ただし最初は一宮町立児童館として開設され、昭和46年1月8日合併により岡山市に移管されている)。

また表1は、岡山市児童館の概況を示したものである。児童館は規模と機能等から、①小型児童館、②児童センター(大型児童センターを含む)、③大型児童館(A型、B型、C型)そして④コミュニティ児童館等の種類に分けられているが¹⁰⁾、岡山市には小型児童館が11施設、児童センターが4施設ある。ただしO児童館は小型児童館ではあるが、全市的な総合福祉施設である岡山Oセンター内に設置されており、大型児童センター的な機能を果たしていると思われる。

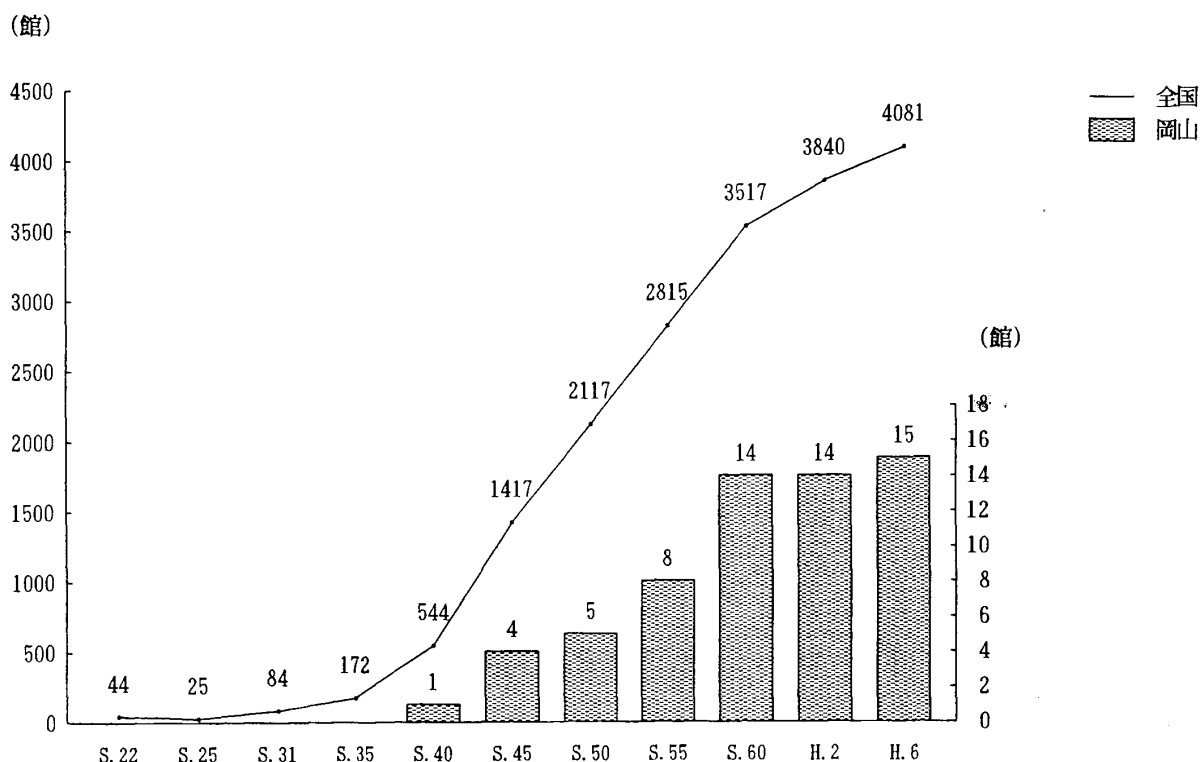


図1 児童館設置数の年次推移

注) 昭和22年—35年の全国の児童館数については、厚生省児童家庭局(1978)児童厚生施設の年次推移、厚生省児童家庭局編、児童福祉30年の歩み、初版、日本児童問題調査会、東京、p446を参照。

昭和40年—平成6年の全国の児童館数については、厚生統計協会編(1995)児童厚生施設設置数の年次推移、国民の福祉の動向・厚生指標 臨時増刊、42(12)、p125を参照。

2 岡山市の児童館の一日平均利用者数

平成6年度(1994年度)の児童館の利用者総数¹¹⁾は236,088人であったが、各児童館毎に一日平均利用者数を割り出すと、図2のようになる。全児童館の平均利用者数は54.0人であるが、平成2年の全国平均60.7人¹²⁾に比べると少なくなっている。また、各児童館の利用者数や年齢構成には、かなりのばらつきが見られる。O児童館は先にも述べたように全市的な総合福祉施設なのでその利用者が最も多い、特に幼児の利用者が多いのが目立つ。またE児童センターの利用者も多く、留守家庭学童が多いのが特徴である。L、M児童館の利用者は少なくなっている。

3 岡山市の「おかやま子ども未来事業」について

岡山市では平成6年度より「子どもにやさしい街づくり事業」が実施されている。平成6年6月3日には「おかやま子ども未来づくり推進委員会」と「おかやま子ども未来づくり推進

議」(庁内会議)が設置され、健全育成普及啓発活動として、「おかやま子ども未来事業」が推進されている。「おかやま子ども未来づくり推進委員会」は、平成6年12月の中間報告を経て、平成7年10月に『「おかやま子どもプラン21(仮称)」の策定に向けての提言」¹³⁾を行った。これを受けて岡山市は、平成8年5月、「おかやま子ども未来プラン(おかやまっ子プラン)」¹⁴⁾を策定し、公表した。また、平成8年度には「中核的施設構想」を実現するため、基本構想、基本計画を策定することになっている¹⁵⁾。また、平成7年度より「子ども生き生き街づくり事業」も実施されており、子どもの日常生活圏における「遊び場」や「遊び施設」「遊び空間」を調査し、その結果については基礎データ化(マップ化)され、平成8年3月に、その報告書¹⁶⁾が発表された。

研究方法

全国と岡山市の児童館の実態を比較検討する

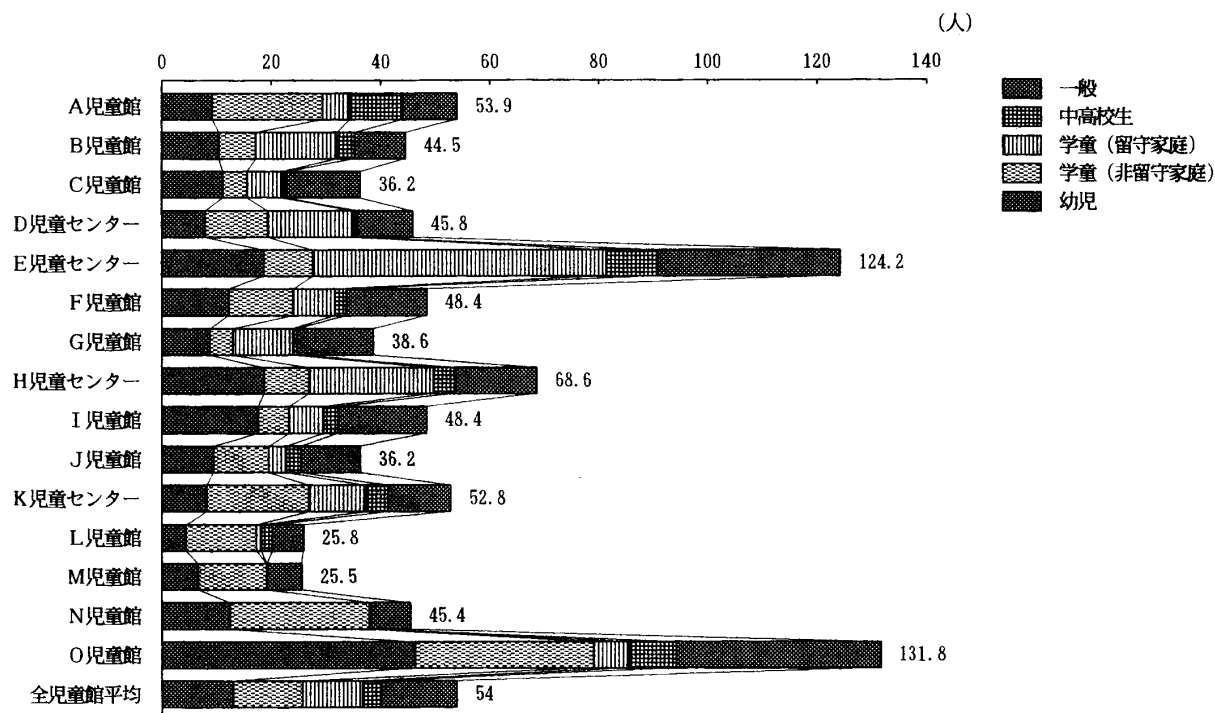


図2 岡山市の児童館一日平均利用者

注) 岡山市福祉部家庭児童課(1995) 平成6年度 岡山市児童館の主な年間活動実績の「平成6年度児童館利用状況集計表(H. 6. 4. 1~H. 7. 3. 31)」より作成。

に当たっては、以下の資料を取り上げた。

1 児童の生活文化研究会(代表者吉沢英子)

「地域における児童の生活文化に関する研究」¹⁷⁾

(以下、「全国調査」と略称)

地域の福祉・教育施設における児童の生活および活動実態、さらに施設職員のとらえた児童の生活意識の傾向に関する基礎データを得るために、児童館と公民館の施設職員を対象に、実態調査(郵送による質問紙法、平成4年3月23日~4月20日)と、事例調査(インタビュー調査法、平成4年7月~平成5年2月)が行われ、分析が試みられている。なお児童館については、全国の児童館数約3,800館のうち、全国児童館連合会の会員児童館2,238ヵ所を抽出し調査標が配布されたが、回収数は1,155ヵ所で回収率は51.6%であった。

2 岡山市福祉部家庭児童課「平成6年度 岡山市児童館の主な年間活動実績」¹¹⁾

本資料は、岡山市の児童館(15施設)の平成6年度の主な児童館活動を「児童の活動」と「その他の活動」に分け、12ヵ月の一覧表に詳細に記入したものである。また、平成6年度児童館

利用状況集計表(H. 6. 4. 1~H. 7. 3. 31)も提示されている。

3 岡山市の児童館の概況(表1)

表1に示した岡山市の児童館の概況については、岡山市保健局福祉部家庭児童課が出しているパンフレット「おかやまのじどうかん」を参考に一覧表にまとめたものである。

「児童館の概要」については、「全国調査」の項目から①児童館の種類・特徴、②児童館の規模、③開設後の年数、④職員の概況に関する結果を取り出し、「岡山市の児童館の概況」(表1)の記述内容を処理して比較を行った。また「児童館の事業内容」については、「全国調査」の項目から①子どもの親を対象とした事業、②子どもを対象とした講座・教室・行事、③子どものための活動グループ、④生活を支援するための活動結果を取り出し、「平成6年度岡山市児童館の主な年間活動実績」から各児童館毎に該当する事業を集計し比較を行った。以下、この順に結果と考察について述べていく。

表1 岡山市の児童館の概況

(平成8年9月30日現在)

	館名	開館年月日 (開設後年数)	職 員 構 成			建物面積 敷地面積	建物構造	備 考
			職員	児童厚生員	その他			
1	A 児童館	昭和 40. 3. 29 (31.5年)	兼	2	1	213.70㎡ 1,183.42㎡	木造 平屋建	一宮町立児童館として開設。昭和46年1月8日合併により岡山市に移管。平成5年に建替え。
2	B 児童館	昭和 44. 4. 1 (27.5年)	兼	2	1	314.68㎡ 1,572.13㎡	木造 平屋建	一宮町立児童館として開設。昭和46年1月8日合併により岡山市に移管。
3	C 児童館	昭和 54. 6. 23 (17年)	兼	2	1	189.99㎡ 1,709.00㎡	鉄筋コン クリート 平屋建	同和対策事業のひとつ「社会福祉の増進」のための施設整備事業。昭和53～58年度整備。
4	D 児童 センター	昭和 55. 9. 1 (16年)	兼	2	2	322.58㎡ 1,605.45㎡	鉄筋コン クリート 2階建	〃
5	E 児童 センター	昭和 59. 11. 16 (12年)	兼	2	2	349.43㎡ 1,070.00㎡	鉄筋コン クリート 2階建	〃
6	F 児童館	昭和 56. 3. 25 (15.5年)	兼	2	1	211.08㎡ 350.00㎡	鉄筋コン クリート 2階建	〃
7	G 児童館	昭和 56. 7. 31 (15年)	兼	2	1	209.18㎡ 997.00㎡	鉄筋コン クリート 平屋建	〃
8	H 児童 センター	昭和 56. 12. 23 (15年)	兼	2	1	326.00㎡ 2,144.21㎡	鉄筋コン クリート 平屋建	〃
9	I 児童館	昭和 57. 4. 16 (14.5年)	兼	2	1	209.37㎡ 1,539.00㎡	鉄筋コン クリート 平屋建	〃
10	J 児童館	昭和 58. 2. 21 (13.5年)	兼	2	1	209.87㎡ 1,324.41㎡	鉄筋コン クリート 平屋建	〃
11	K 児童 センター	昭和 58. 5. 25 (13年)	兼	2	2	321.75㎡ 1,813.42㎡	鉄筋コン クリート 平屋建	〃
12	L 児童館	昭和 42. 4. 1 (29.5年)	兼	2	0	186.03㎡ 602.00㎡	木造 平屋建	〃
13	M 児童館	昭和 48. 4. 1 (23.5年)	(委 託) 1	1	0	205.36㎡ 1,462.49㎡	木造 平屋建	藤田村立児童館として開設。昭和50年5月1日合併により岡山市に移管。市社協に委託。
14	N 児童館	昭和 45. 4. 1 (23.5年)	(委 託) 1	1	0	192.00㎡ 543.00㎡	木造 2階建	藤田村立児童館として開設。昭和50年5月1日合併により岡山市に移管。市社協に委託。
15	O 児童館	平成 6. 5. 25 (2年)	(委 託) 1	5	0	489.39㎡ 29,162.10㎡	鉄筋コン クリート 2階建	全市的な総合福祉施設である岡山Oセンター内に設置。岡山市O公社に委託。

結果と考察

1 児童館の概要

1) 児童館の種類と特徴

岡山市の児童館は、表1のように15施設中12施設が公立公営(80.0%)で、3施設が公立民営(20.0%)である。「全国調査」でも82.9%が公立公営の児童館で、民間の児童館は0.6%と非常に少なかった。岡山市には民間の児童館はない。

全国的な児童館の特徴としては、単独施設が60.2%と最も多く、複合施設は36.6%である。併設施設は福祉関係施設が40.1%、教育施設が20.2%と、福祉施設との併設が多い。岡山市の場合は、〇児童館を除くすべての児童館が単独施設(93.3%)である。既に述べたように、〇児童館は全市的な総合福祉施設内に設置されている。この施設は、子どもから高齢者や障害者まですべての市民を対象に、福祉・保健・生涯学習などの施策を総合的・効果的に実施している。

2) 児童館の規模

全国的には児童館の施設規模は200㎡～400㎡が最も多く、45.2%と約半数にものぼっている。児童館の建物の広さは、「児童館の設置運営要綱」¹⁰⁾による国の基準では、小型児童館の場合は原則として185.12㎡以上、児童センターの場合は原則として297㎡以上とされているが、実態と比べると、最低基準とはいえ、いかに国の基準が低いかがわかる。

岡山市の児童館も、表1からわかるように、すべて国の基準を上回っており、200㎡～400㎡の施設が77.3%と最も多くなっている。

3) 開設後の年数

岡山市の児童館の開設後の年数は、表1の通りであるが、全国調査が4年前の平成4年3月に実施されているので、その時点に合わせ開設後の年数を修正し、全国との比較を行った。

全国的には、20年未満の児童館が約8割を占めており、歴史の浅い児童館が多くなっているが、これは先に述べたように、児童館が量的に整備されだしたのが昭和38年以降であり、本格的に整備、拡大されたのは昭和40年代になって

からであることを反映している。岡山市の児童館も20年未満が約7割で同様の傾向を示している。特に岡山市の場合は、昭和53～58年度の同和対策事業の一環として事業費9億2,567万円をかけて、児童館(児童センター)9館が整備されたこともあって¹⁸⁾、6～15年の児童館が6割を占めている。全国的にも岡山市の場合も、開設後5年未満が少なく、近年の児童館の伸び悩みを示している。

4) 職員の概況

児童館に働く職員の状況については、全国調査では、館長が兼任・非常勤が約6割と多く、職員は平均2人で、4人に一人が女性である。兼任ないし非常勤の館長の場合は、運営・管理面の体制が弱くなるとともに、対外的な連携や組織的な対応ができにくい面が出てくるが、反面、組織がフラットになり機動性は高まる効果もあるといわれている。岡山市の場合は表1のように、公立公営の児童館の館長はすべて兼任になっている。職員については、「児童館の設置運営要綱」¹⁰⁾によると小型児童館、児童センターとも2人以上の児童厚生員を置くほか、必要に応じ、その他の職員を置くことになっている。岡山市の児童館は人数の上ではすべてこの基準を満たしているが、今後、職員の在職年数や取得資格等についても調査する必要があると思われる。

ちなみに、全国調査では、在職期間については3年以下と短期間のもの(約4割)と7年以上の長期間のもの(約3割)が多く、専門化傾向とパート化傾向の二極分化状況にあり、取得資格は保母が最も多く(約7割)、教員(約4割)が次いでいる。

2 児童館の事業内容

1) 子どもの親を対象とした事業

全国調査では62.8%の児童館が、岡山市でも60%の児童館が子どもの親を対象にした講座を実施している。しかし、図3からもわかるように、その内容を詳しくみると、岡山市では「手作りの会」など「親同士の交流を目的とするもの」が圧倒的に多くなっている。全国調査では、これ以外にもさまざまな内容の講座が開かれていることがわかる。児童館が親たちの仲間づく

りの場として機能していることは重要であるが、子育て情報提供の機会を工夫することも大切であると思われる。

2) 子どもを対象とした講座・教室・行事

図4からもわかるように、全国・岡山市とも

開講されている講座の中で最も多い講座は、工作であり、次いで手芸・料理が多く、いわゆる3大講座と言われるものが活発に行われている。また全国では、卓球・一輪車・ケン玉のいわゆる三種の神器と言われる活動も多く実施されて

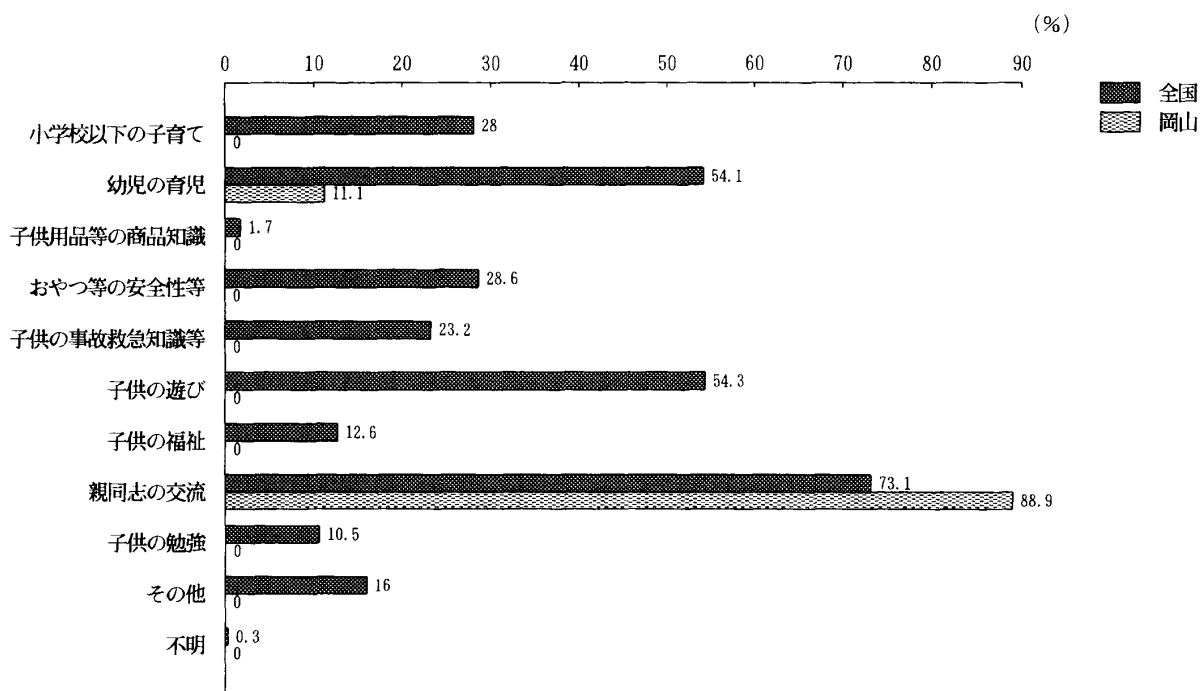


図3 親を対象にした講座

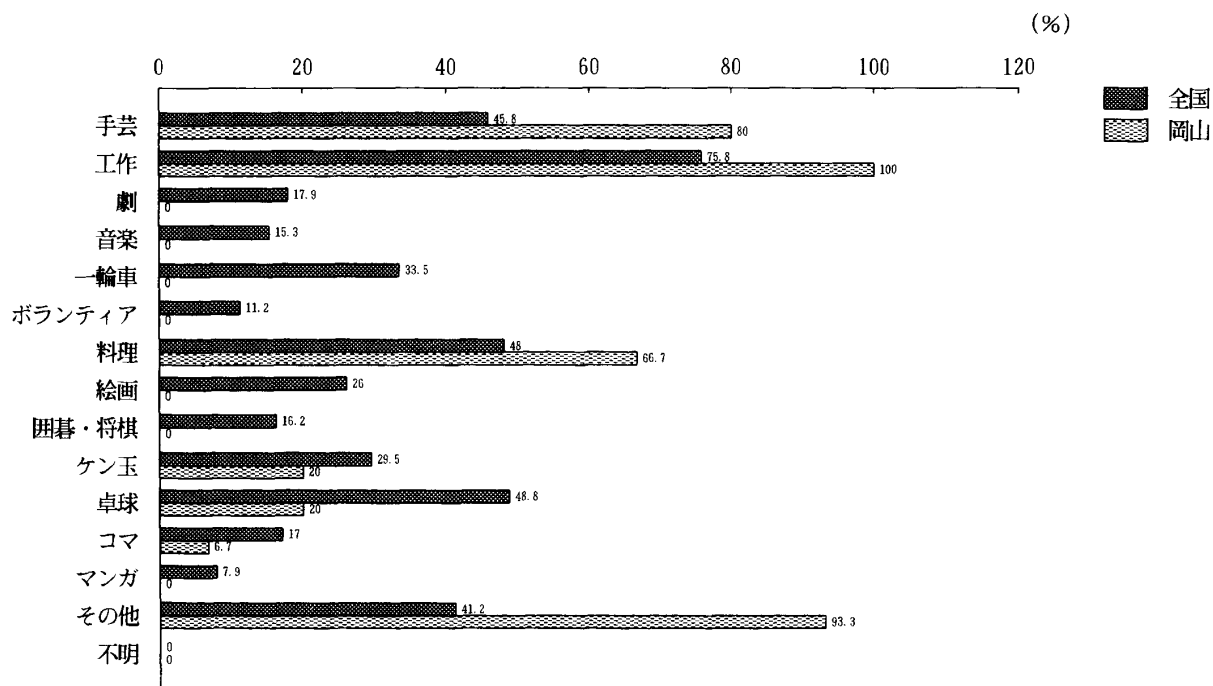


図4 子どもを対象にした講座・教室

いる。岡山市の場合、卓球やけん玉の講座・教室を実施している児童館は約2割であるが、ほとんどの児童館の日常活動の中で、卓球やけん玉を使った活動が行われている。一輪車も同様である。岡山市の場合その他の活動が多くなっているが、その内容としてはビデオ会、サッカー教室、陶芸教室等があり、現代の子どもに対応した活動が工夫されている。

行事については、図5のように全国でも岡山市でもクリスマス会や、映画会が約8割近く実施されている。日帰りキャンプと宿泊キャンプについては、岡山市と全国では反対の傾向にあるが、これは後で述べるように、岡山市の場合、学童保育を実施している児童館が少ないためであると思われる。また全国調査項目には載っていないが、岡山市の大部分の児童館で実施されている行事としては、入学・進級のお祝会、体力測定、避難訓練、新年お楽しみ会等があった。なおボランティア活動については、全国では15.5%実施されているが、岡山市の場合はまったく実施されていなかった。今日、中高校生が児童館等を拠点として地域のボランティア活動を実践することの重要性が指摘されている^{4), 19)}。岡山市の児童館では、図2からもわかるように中高

校生の利用が少ない。今後、このような観点からも、中高校生を対象にしたボランティア活動に取り組むことが大切になってくるのではないだろうか。

3) 子どものための活動グループ

子どものために活動をしているグループの有無については、全国では約75%の児童館が活動グループ有りと答えているのに対して、岡山市では93.3%とほとんどの児童館で子どものための活動グループが活動を行っている。しかし、グループの種類は、図6からもわかるように、母親クラブ等の親の会（主に母子クラブ）(92.9%)に偏っており、しかも会場提供がほとんどである。全国調査では、児童館はさまざまな活動グループの活動拠点になっており、またグループの組織化支援も行われている。今日、児童館は地域の自主的な健全育成活動や家庭交流・子育てグループを支援する役割⁴⁾、つまり地域活動(社会参加活動)促進機能²⁰⁾が期待されている。岡山市の児童館もこのような取組みを検討する必要があるのではないだろうか。

4) 生活を支援するための活動

岡山市では、93.3%の児童館が生活を支援するための活動を実施しており、全国調査の66.5%

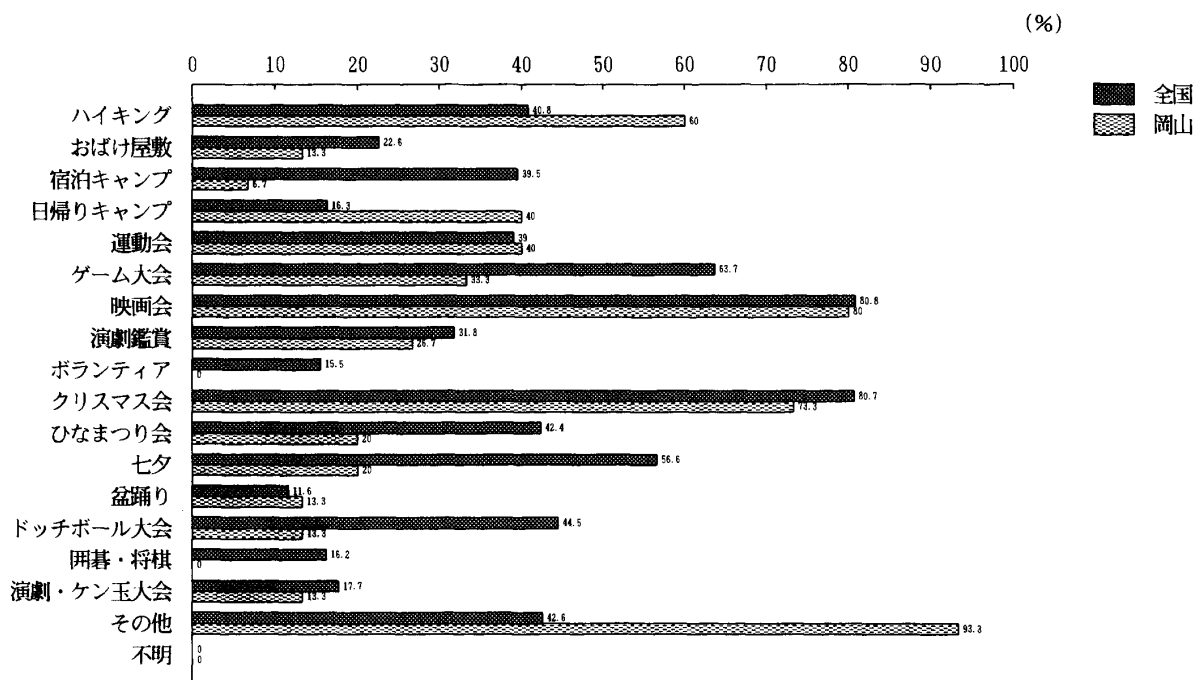


図5 子どもを対象にした行事

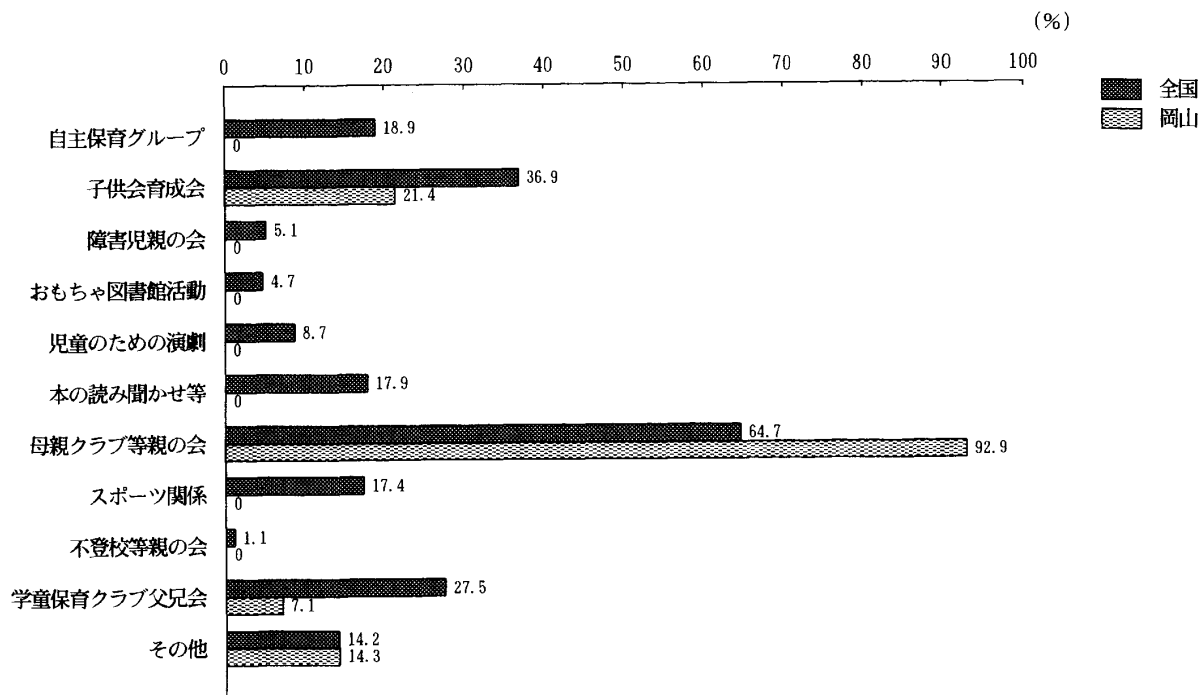


図6 子どものための活動グループ

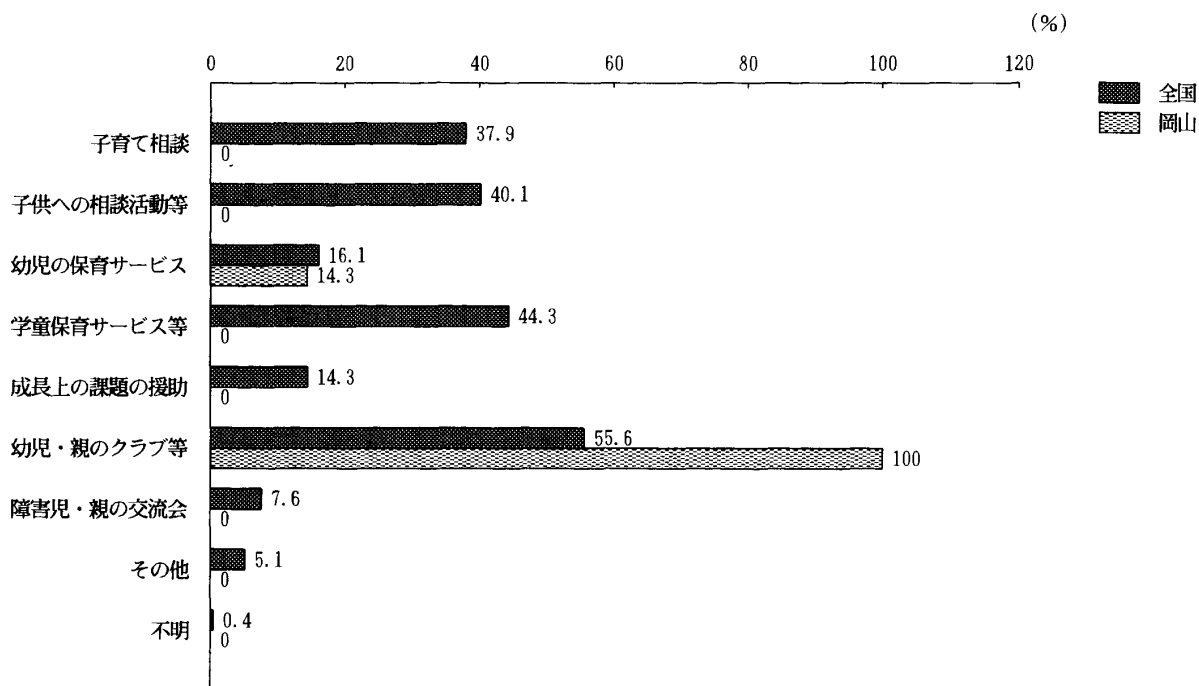


図7 生活を支援するための活動

を大きく上回っている。その活動内容は、図7に示すように、幼児やその親を対象にしたクラブ・教室であり、岡山市のほとんどの児童館で定期的に幼児クラブが開かれている。しかし、

歴史的に児童館機能の一つとされてきた学童保育クラブについては、全国では44.3%と約半数弱の児童館で実施されているが、岡山市の児童館ではほとんど実施されていない。岡山市の場

合、学童保育は児童館とは別に、「岡山市児童クラブ」²¹⁾を設置して行われているからであろう。ただし、図2からわかるように、E児童センターでは、留守家庭児童の利用者が多くっており、学童保育的機能を果たしていると思われる。

また、全国調査では、子育てについての親への相談活動が37.9%と4割弱の児童館で実施されているが、これは、昭和59年より児童センター等において「子ども家庭相談事業」の実施が図られてきたからであろう。岡山市の場合は児童館において「子ども家庭相談事業」は行われていないが、O児童館には、児童館内に家庭児童相談コーナーが設けられ、児童相談所より派遣された専門相談員が相談に応じている。他機関との積極的な連携の先駆的な試みとして評価したい。

おわりに

最後に、本研究で明らかになった結果と考察を踏まえて、これからの岡山市の児童館の課題について、2点のみ、すなわち「児童館の適正配置」と「児童館機能の見直し」について指摘しておきたい。

1 児童館の適正配置

「子供の未来21プラン研究」⁴⁾は、「市町村における健全育成活動を推進するため、その拠点としての児童館の機能を積極的に評価し、計画的な整備を図る必要がある」と指摘している。そして「児童館の配置については、児童館的な役割を果たし得る他の社会資源と併せて、子供たちが歩いて通うことができる距離、すなわち、おおむね小学校区に1か所程度の整備を目標とすべき」と述べている。子どもにとっての日常生活圏は、小学校区であると考え、岡山市の小学校区は83学区あるので、子どもの人口割を考慮に入れないで単純に計算すれば、83の児童館、もしくは児童館的役割を果たす社会資源の設置が必要になってくる。現在、岡山市の児童館は15施設で数が少ないうえに、開設後の年数が5年未満の児童館はO児童館のみで、最近の児童館の伸び悩みが見られることから、早急に児童館等を整備することが必要であると思われる。児童館の整備については次の3点に

留意すべきであると考え、

1) 児童館と児童クラブの統合

児童館を整備するにあたっては既存施設の活用が考えられるが、岡山市の場合、児童クラブの活用が効率的であると思う。歴史的に児童館機能のひとつとされてきた学童保育については、岡山市では平成8年4月現在で、33の児童クラブが32小学校区に設置され、「放課後児童対策事業」が実施されている。岡山市の児童クラブの認可条件は、①放課後児童が、20人いること、②原則として小学校敷地内に設置場所があること、③運営委員会が設置されていることである²¹⁾。したがって、1児童クラブを除く残り32の児童クラブが小学校敷地内に単独で設置・運営されている。

しかし、これからの児童クラブは、「単独で設置・運営されるより、児童館を設置し、その事業の一環として位置づけることが重要である」²⁰⁾と言われている。全国児童館連合会「児童館事業の発展を図るための施策スキーム報告書」²²⁾でも、地域福祉・在宅福祉を重視する潮流にあって、「児童館と児童クラブを施設種別としては統合し、地域の子どもや家庭に対する一次的な対応をする地域福祉施設とし、その本館が現行の児童館、ランチが現行の児童クラブとして位置づけ新たな事業展開を図る必要がある」と指摘されている。岡山市の場合も、児童館と児童クラブの発展的統合を検討することも必要であろう。学童保育（児童クラブ）については、現在その法制化が審議されており、今後児童福祉法の改正による学童保育の位置づけに留意しつつ検討をする必要がある。

2) 民間の児童館の整備

また、平成8年度から「保育所併存型民間児童館等事業」が実施されている。この事業は、「就労家庭子育て支援モデル事業」を名称変更したもので、民間保育所で低学年児童を育成指導することを目的に児童館を併設する場合に運営費を助成する保育所併存型民間児童館等事業と、民間の社会福祉施設において学童保育専門の児童館を建設するための整備費を助成するコミュニティ児童館整備事業がある²³⁾。

岡山市の児童クラブは先に述べたように、1

児童クラブを除く残り32の児童クラブが小学校敷地内において単独に設置・運営されており、保育所や児童福祉施設に併設された児童クラブはない。また岡山市には、事業の運営を民間に委託している児童館は3施設あるが、すべて公立で私立の児童館は設置されていない。今後、民間の保育所や児童福祉施設に児童クラブを開設し、保育所併存型民間児童館やコミュニティー児童館として整備していくことも検討する必要があるのではないだろうか。

また、〇児童館のような複合施設を考えることもできよう。なお、岡山市には民間保育所は44施設あるので、その活用が期待される。

3) 大型児童館の設置と児童館のネットワーク化

岡山市では、先に述べたように「おかやま子ども未来づくり推進委員会」の提言を受けて、「おかやま子ども未来づくり事業」の一環として、中核的施設の基本構想、基本計画が策定されている。中核的施設については、「夢のある施設として、子どもの好奇心・探索意欲をかきたて、子どもが自ら体験し自分から発見し、あるいは楽しめるような工夫をする必要がある。また、日常圏施設を支援し補完する機能をもたせる」¹⁵⁾としている。

現在、厚生省児童家庭局によって「県立児童厚生施設事業（ネットワークづくり事業）」の実施が図られている。この事業は、大型児童館と児童館・児童センターとのネットワークづくりを推進するとともに児童館の設置されていない地域を中心に移動型児童館（プレーバス）を巡回させることにより、児童健全育成の一層の向上を図ることを目的としている。この中核的施設を大型児童館として位置づけるならば、この事業を実施していくこともできるであろう。なお、移動児童館については、「おかやま子ども未来プラン」においても提言がなされている¹⁴⁾。

また、長期的には、83小学校区に児童クラブを発展させた小型児童館（ブランチ児童館）を増設し、33中学校区に次に述べる新機能を備えた小型児童館・児童センターを増設し、さらに高等学校区に中高校生（年長児童）を対象とする大型児童センターを新たに設置し、この中核

的施設（大型児童館）を中心にネットワーク化を図っていくことも考えられるであろう。

2 児童館機能の見直し

児童館の機能の見直しについては、種々の指摘がなされているが、中児審「児童の健全育成に関する意見」⁵⁾では、従来の児童館機能に次のものが加えられている。すなわち「①遊び等の自主的な活動の場を提供し、健康や情操を向上させることに加え、現代的課題として社会道德、創造性、思いやりの心を育てる等の、児童育成機能、②ボランティアの拠点としての、児童自身や地域住民の社会参加の促進機能、③児童クラブ、子育て相談等の拠点としての、家庭と地域の子育て支援機能」である。

子どもは豊かな遊びや家事への関わりやボランティア活動などの体験を通して思いやりの心を育てていくと言われている。岡山市の児童館では、子ども達のボランティア活動は実施されていない。また地域の子どものための活動グループとの連携はどの児童館にも見られるが、会場提供がほとんどで、グループ組織化支援は行われていない。子育て支援機能については、岡山市の場合は、ほとんどの児童館で定期的に幼児クラブ活動が実施されており、乳幼児を持つ母親のための子育て支援活動が活発に行われていることは評価できる。しかし、子育て情報の提供する親のための講座はあまり開かれておらず、児童館と児童クラブの連携もほとんどなく、専門的な子育て相談も〇児童館以外行われていないようであり、子育て家庭の多様なニーズに対応できていないように思える。

以上のように岡山市の児童館の事業内容は必ずしも先にあげた児童館の機能を果たしていないようである。今後、新たな児童館機能の観点から児童館活動を見直していくことも必要になってくるであろう。具体的な活動例については、全国児童館連合会児童館研究委員会ワーキンググループ“93「児童館活動の基本コンセプトと新たな活動の展開について」²⁰⁾の提言が参考になる。この提言では、これからの児童館の基本機能として、(1)子ども育成機能（①遊びを通じた援助機能、②子どもの生活の安定をはかるための援助機能）、(2)子育て家庭支援機能、(3)地域活動(社

会参加活動)促進機能をあげ、それぞれの機能の活動例を提示している。

特にこれからの児童館が強化すべき機能は (2) 子育て家庭支援機能 (デイサービス, 相談・情報提供サービス, 家庭と子育て関連社会資源間のコーディネート) であると言われている²²⁾。したがって、このような子育て家庭支援機能の観点から岡山市の児童館活動内容を検討すること

が必要になってくるが、それについては今後の研究課題としたい。

本稿作成にあたり貴重な資料を提供くださいました岡山市福祉部家庭児童課に、またデータの集計にあたって協力くださったノートルダム清心女子大学児童学科4年生の森由紀恵さんと寺澤輝早子さんに深く感謝いたします。

文 献

- 1) 厚生省児童家庭局 (1995) 児童福祉法の概要。厚生省児童家庭局編, 児童福祉六法 (平成8年版), 初版, 中央法規, 東京, p21.
- 2) 八重樫牧子 (1995) 今後の児童家庭福祉施策の基本方向。川崎医療福祉学会誌, 5(1), 109—120.
- 3) 八重樫牧子 (1995) 今後の児童家庭福祉施策の基本方向 (2)。川崎医療福祉学会誌, 5(2), 49—59.
- 4) たくましい子供・明るい家庭・活力とやさしさに満ちた地域社会をめざす21プラン研究会 (子供の未来21研究会) (1993) 「たくましい子供・明るい家庭・活力とやさしさに満ちた地域社会をめざす21プラン研究会」 (子供の未来21プラン研究会) 報告書。子ども家庭福祉情報, (7), 100—110.
- 5) 中央児童福祉審議会家庭児童健全育成対策部会 (1995) 児童の健全育成に関する意見。川超久司編, 月刊福祉増刊号・施策資料シリーズ 社会福祉関係施策資料集13, 初版, 全国社会福祉協議会, 東京, pp143—144.
- 6) 厚生省・児童家庭局 (1996) 現行の児童家庭福祉体系の見直しについて 全国児童福祉主管課長会議資料 (1996. 3. 8)。全国保育団体連絡会・保育研究所編, 保育白書 1996年版, 初版, 草土文化, 東京, pp172—173.
- 7) 実方伸子 (1996) 地方版エンゼルプランの策定状況と今後の課題。全国保育団体連絡会・保育研究所編, 保育白書 1996年版, 初版, 草土文化, 東京, pp6—17.
- 8) 岡山市情報管理課統計係 (1996) 平成7年国勢調査速報。
- 9) 岡山市保健福祉局福祉部家庭児童課 (1995) 岡山市における児童環境の現状分析 — 既存データの分析を中心に —。p3.
- 10) 厚生省事務次官 (1995) 児童館の設置運営について。厚生省児童家庭局編, 児童福祉六法 (平成8年版), 初版, 中央法規, 東京, pp321—325.
- 11) 岡山市福祉部家庭児童課 (1995) 平成6年度 岡山市児童館の主な年間活動実績。
- 12) 全国児童館連合会・児童館研究委員会 (1990) 児童館110番。初版, 全国児童館連合会, 東京, p15.
- 13) おかやま子ども未来づくり推進委員会 (1995) 「おかやま子どもプラン21 (仮称)」に向けての提言。
- 14) 岡山市保健福祉局福祉部家庭児童課 (1996) おかやま子ども未来プラン (おかやまっ子) “子ども一人ひとりが輝くまち, おかやま”をめざして。
- 15) 岡山市福祉部家庭児童課 (1996) おかやま子ども未来づくり事業。
- 16) 子どものための街づくり研究会 (1996) こんな遊び場が欲しい — 住民参加による遊び環境調査マニュアル。岡山。
- 17) 児童の生活文化研究会・代表吉沢英子 (1993) 地域における児童の生活文化に関する研究 (伊藤忠記念財団調査研究報告書26)。初版, 財団法人伊藤忠記念財団, 東京。
- 18) 岡山市百年市編さん委員会 (1991) 岡山市百年史 下巻。初版, 岡山市, 岡山, p779.
- 19) 中央社会福祉審議会地域福祉専門分科会 (1993) ボランティア活動の中長期的な振興方策について — 中央

社会福祉審議会地域福祉専門科会意見具申一、子ども家庭福祉情報、(7)、115—126.

- 20) 全国児童館連合会児童館研究委員会ワーキンググループ“93 (1994) 児童館活動の基本コンセプトと新たな活動の展開について (提言)”. 初版, 全国児童連合会, 東京.
- 21) 岡山市福祉部家庭児童課 (1996) 「岡山市児童クラブ」運営フローチャート.
- 22) 全国児童館連合会 (1996) 児童館事業の発展を図るための施策スキーム (scheme) 報告書. 初版, 全国児童館連合会, 東京.
- 23) 逆井直紀 (1996) 1996年度国家予算の動向と保育政策, 全国保育団体連絡会・保育研究所編, 保育白書 1996年版, 初版, 草土文化, 東京, p149.